

夏秋トマト



トマトの中でも、市内で多く栽培されている夏秋トマトは、さっぱりとした酸味と甘み、そして完熟しても果肉がしっかりとっていて日持ちが良いのが特長です。

昼夜の温度差が大きい高梁市はトマトの栽培に適しており、産地としての歴史は半世紀近くにもなります。色彩が桃色に近いことや、岡山県をPRすることなどから名が付いた「桃太郎トマト」の品種を中心に生産している、主に京阪神・県内を中心に出荷されています。

下表のとおり、近年は生産者の高齢化から、市の生産量は横ばい傾向となっていますが、シェアは県内の3割を占めています。

市は、県・JAびほく等と連携し、養液土耕システムの導入、クロマルハ

ナバチによる受粉などトマト栽培の省力化の推進や、選果場の導入による産地の拡大、品質向上等の事業に取り組むなど、夏秋トマトの振興に努めます。

トマト生産量の推移

生産量	昭和 60 年		平成 2 年		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年	
	(t)	A/B (%)	(t)	A/B (%)	(t)	A/B (%)	(t)	A/B (%)	(t)	A/B (%)
高梁市 (A)	2,437	24.7	1,895	22.6	1,750	25.3	1,844	27.7	1,810	29.5
岡山県 (B)	9,860	—	8,370	—	6,920	—	6,650	—	6,130	—

岡山農林水産統計年報



自動箱詰機により箱詰めされるトマト

県下最大のトマト産地の拠点施設となっているのが備中町にある「JAびほくトマト選果場」です。
平成16年に完成したこの施設は、それまで生産者が自分で詰めていた箱詰め作業を一手に引き受け、生産者の省力化を実現し、大規模化を可能にしました。
備中町、川上町など市内に5カ所ある中継基地を経由して運び込まれたトマトは保冷库に保管された後、手選別により作業工程ラインへ乗せられます。その後、カラーソーターという機械で画像解析し、階級（面積）、変形度（真円

西日本最大級の規模・施設 トマト選果場

7月～8月の、この時期は最盛期で、トマト搬入の多い日は1日5000箱を超え、20トにもなります。
JAびほく備中総合センター営業課長の前迫達男さんは、「保冷库・保冷車を使って低温輸送できるのが強み。それぞれのポジションで作業を軽減し、農家は栽培に専念してほしい。長い年月をかけて出来上がった産地をこれからもみんなで力を合わせて守っていききたい」と話されます。

度合、障害面積、着色などを判別。判別されたグループごとに自動箱詰機により箱詰めされ、梱包、出荷という具合です。



トマト選果場外観

特長的な栽培、作物

防除の工夫で減農薬栽培

福井勝一さん (有漢町有漢)

夏秋ナスを栽培する福井勝一さん(66)は、5年ほど前から「天敵利用栽培」を取り入れています。これは、害虫の土着天敵(益虫)を利用することで、農薬散布による防除を少なくする方法。ほ場の周囲に植えたソルゴー(イネ科の牧草)に付くアブラムシを餌とするヒメハナカメムシが、その後、ほ場のナスに付いたアブラムシも捕食するという仕組みです。



ナスの誘引作業。防風ネットの後ろに茂るのがソルゴー。

ほかにもさまざまな防除方法を取り



入れ、夜間集まってくる蛾の一種ハスモンヨトウに昼間と勘違いさせ行動を抑制する黄色防蛾灯、匂いで雄を誘引して捕獲し、交尾を防ぐフェロモントラップなども設置しています。

「害虫は農薬に抵抗性がつくし、農薬の散布作業も大変で防除には苦労していました。ちょうど「食の安全」が言われ始めたころでもあったので、天敵利用栽培を取り入れてみたんですよ。やり始めると面白くなり、視察したことを参考にするなどして、新しい方法も取り入れてきました。設備に費用はかかりますが、以前に比べて害虫の侵入が減り、農薬散布の回数もぐんと減りました」と話す福井さん。

害虫防除のさまざまな工夫が減農薬につながり、農薬経費や作業労力の軽減にもなっています。

有機無農薬栽培

農薬や化学肥料を一切使用しない有機無農薬栽培。市には2つの「有機JAS」の認証(平成13年3月、改正JAS法)を受けた生産集団が有機無農薬の生産を行っています。アイガモによる無農薬の米づくりを行っている宇治町ふるさと農法研究会と、有機無農薬栽培で高品質の野菜を生産している上組営農実行組合(川上町)です。

手軽な作物

「花トウガラシ」

中井町や成羽町などで栽培されている花トウガラシ(観賞用トウガラシ)。手軽に作付けできることから女性や高齢者を中心に栽培されています。平成19年度は前年度より作付面積が15%増加し、70戸(30戸)で作付けされました。高梁の花トウガラシは、関西や地元市場などで他産地より高単価で取引されており、将来的にも安定的な需要が期待できます。



小豆新品種

「夢大納言」

「夢大納言」は、県農業試験場が

育成し、平成18年に品種登録した小豆の新品種です。一昨年から中井町を中心に試作を始め、今年は約1.5畝で栽培されています。本格的な生産はまだこれからですが、市の新たな地域特産物として普及、定着を目指しています。

あぜ管理の省力化にムカデシバ

あぜの草刈りは年4〜5回必要で、農家にとって大きな負担です。あぜにムカデシバ等のカバープランツを植えると、年1〜2回の草刈り作業で済み、あぜ管理の省力化を図ることができると。詳しくは、J A B ほか営農生産部(☎4593)へご相談ください。

新世代フルーツ「オーロラブラック」



ブドウのオーロラブラックは、岡山県で育成され、次世代フルーツとして期待されています。市では、平成14年ごろから、ベリーAの産地や標高が低くピオーネが着色しにくい地域へ導入されています。